

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	飯田地球温暖化対策地域協議会運営事業	会計	一般会計	事業No.	352	施策順No.	55-001
		事業種別	政策・重点	予算科目	4-1-5-10-1		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	地球温暖化対策課		
施策	55環境改善活動の展開			事業期間	開始	21	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民・事業者・市役所						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	飯田地球温暖化対策地域協議会の運営や活動を支援することで、地域全体の温暖化防止活動を推進する。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		飯田市の人口(人) (H21.10.1推計人口)		106630	105691	105036	107000		
		協議会の行う温暖化防止活動への参加者	5070	5580	16610	17000	16910	10000	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	協議会の構成団体の積極的な参画による様々な機会を通じて一定の地球温暖化防止に関する普及啓発を達成することができた。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	地域全体で地域温暖化防止活動を推進してゆくための組織である飯田地球温暖化対策地域協議会の活動の支援を通じて地域ぐるみで温暖化防止活動を推進する。そのために、対象となる団体の運営費の一部を補助金として支出する。また、対象団体の事務局機能を担う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 飯田地球温暖化対策地域協議会への活動経費補助と事務局としての関与を行い、協働して啓発等の活動を行う。 (1)例会等(例会・運営会議・総会)の開催 (2)ホームページの運営 (3)会員の取組(カーボンオフセット、EV導入、海外視察など)のアピール活動 (4)エコドライブ1000人プロジェクト (5)再生可能エネルギー推進交付金事業の運営(市が委託) (6)環境モデル都市行動計画を踏まえた協議会ビジョンの策定に向けた検討	1 対象団体数(件) (1)会議回数(回) (2)HP数(件) (3)活動回数(回) (4)参加者数(人) (5)受託件数(件) (6)会議回数(回)	1 1件 (1)18回 (2)1件 (3)5回 (4)1,050人 (5)437件 (6)5回
23年度実施計画	1・3・4・5・6については「エコライフ啓発普及事業」へ移管 2については「おひさまのエネルギー利用推進事業」へ移管		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		200	200		
	計(A)		200	200	0	
	正規職員所要時間			350		
	臨時職員等所要時間			200		
	人件費計(B)			1,467		
	トータルコスト A+B			1,667		

4 事業に対する市民や議会の意見

市民や議会からは、多様な主体が参画して、温暖化対策を地域で推進してゆくためのコーディネーター組織である飯田地球温暖化対策地域協議会の活動に対する期待は大きい。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	環境改善活動を継続的に展開する	施策の成果指標又はムツ指標	環境改善活動を継続的に実施している市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	平成19年度に飯田市環境協議会を発展的に解消し、飯田地球温暖化対策地域協議会に再編し、より多くの地球温暖化防止に取り組む市民団体等を巻き込みながら、温暖化防止の取り組みの輪を広げられた。		
	後期に向けた課題	協議会が主体となって実施する地球温暖化防止のための意識啓発事業をより水平展開していく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	組織体制を見直し、機動性のある団体とし、会員どうしのつながりを強化した。		
	後期に向けた課題	構成団体が協議会により強い意識で参画する活動や仕掛けが必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	飯田市環境協議会で取り組んだ環境省の補助事業が先進的な取り組みであったために、視察を有料化して自主財源を確保した。		
	後期に向けた課題	今後も市と連携して視察の受入等で自主財源を確保していく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	各種市民団体を通じて温暖化防止の取り組みの輪を広げていく公益的な団体であるため、市からの最低限の運営費用の拠出は妥当である。		
	後期に向けた課題	今後も同規模の財政的な運営支援を継続していく必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果た しましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政は どのような働きかけをしましたか、又は、配 慮しましたか	4年間の振り返り	①協議会を構成するのは、地球温暖化防止に積極的に取り組む市内の企業、NPO、市民団体で、それぞれの得意とする分野でまた、協議会としての様々な地球温暖化防止のための啓発活動を行った。 ②構成団体が主体的に活動できるための各種後方支援(情報発信等)を行なった。		
	後期に向けた課題	市の環境モデル都市行動計画に掲げるエコライブの推進施策に主体的に関与できる仕組みづくりを行なう必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	環境省の補助事業主体という性格であった飯田市環境協議会から、構成団体が主体的に地球温暖化防止活動を行える協議体に改編することができ、構成団体も増えてきた。		
	後期に向けた課題	構成団体の輪を広げ、市の環境モデル都市行動計画におけるエコライブの普及の取り組みに積極的に連携できるよう、市としての支援が必要となってくる。当面は、会の安定した運営の点から市が事務局を取る体制を継続するが、状況によって体制の見直しを検討する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------